

# 皿倉登山鉄道株式会社

## I 法人の概要（令和2年4月1日現在）

### 1 所在地

北九州市八幡東区大字尾倉 1481 番地の 1

### 2 設立年月日

昭和 32 年 3 月 1 日

### 3 代表者

代表取締役社長 吉田 茂人

### 4 資本金

10,000 千円

### 5 北九州市の出資金

10,000 千円（出資の割合 100.0%）

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	6 人	0 人	1 人	5 人

### 7 市からのミッション

本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の誘致など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

## II 令和元年度事業実績

当社は、皿倉山においてケーブルカー及びスロープカー施設を市から借り受けて運行している。あわせて皿倉山頂展望台の管理運営業務等を市から受託している。

令和元年度も前年度に引き続き、ホテルへの優待券配布、福祉施設団体・保育所等に対する無料送迎サービス、旅行社等への売り込み・連携、夏のビアガーデンを始めとする四季折々のイベントの実施及びマスコミ・雑誌等への積極的なPR活動などの、集客対策に努め、皿倉山の賑わいを創出した。

### 1 輸送人員

輸送人員は、韓国からの利用客の減少やケーブルカーの大規模オーバーホール期間（令和2年2月17日～3月31日）中の運休のため、ケーブルカーでは前年比約22千人、9.5%減の206,925人となった。スロープカーでは、前年比約21千人、10.7%減の179,192人となった。

## 2 営業損益

営業収益は、1億4,213万円（前期比 524万円減）となった。

営業費は1億4,087万円（前期比 1,671万円増）となり、当期の営業損益は126万円（前期比 94.6%・2,195万円減）の黒字となった。

## 3 経常損益

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、291万円（前期比 88.3%・2,189万円減）の黒字となった。

## 4 当期純損益

上記経常損益から特別損益を加え、法人税等を差し引いた当期純損益では、前期比 2,187万円減の 285万円の黒字となった。

### Ⅲ 令和元年度決算

#### 1 貸借対照表

令和2年3月31日現在（単位：円）

科 目	金 額	科 目	金 額
( 資 産 の 部 )		( 負 債 の 部 )	
流 動 資 産	161,340,991	流 動 負 債	52,662,636
現金及び預金	129,366,200	買 掛 金	858,000
未 収 入 金	26,195,637	一年内返済予定長期借入金	5,099,999
商 品	1,152,755	未 払 金	45,187,307
貯 蔵 品	4,116,150	預 り 金	148,750
立 替 金	93,569	仮 受 金	21,580
前 払 費 用	49,080	未 払 法 人 税 等	81,000
仮 払 消 費 税 等	367,600	賞 与 引 当 金	1,266,000
固 定 資 産	28,931,011	固 定 負 債	47,196,015
鋼索鉄道事業固定資産	26,478,512	長 期 借 入 金	46,100,015
その他事業固定資産	2,354,469	退 職 給 付 引 当 金	1,096,000
投資その他の資産	98,030		
出 資 金	10,000	負 債 合 計	99,858,651
長期前払費用	88,030	( 純 資 産 の 部 )	
		株 主 資 本	90,413,351
		資 本 金	10,000,000
		利 益 余 剰 金	80,413,351
		その他利益剰余金	80,413,351
		繰越利益剰余金	80,413,351
		(うち当期純利益)	2,848,792
		純 資 産 合 計	90,413,351
資 産 合 計	190,272,002	負 債 ・ 純 資 産 合 計	190,272,002

2 損益計算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日 (単位:円)

科 目	金 額	
鋼 索 鉄 道 事 業		
営 業 収 益	98,484,695	
営 業 費	116,601,672	
営 業 損 失		18,116,977
そ の 他 事 業		
営 業 収 益	43,649,418	
営 業 費	24,269,034	
営 業 利 益		19,380,384
全 事 業 営 業 利 益		1,263,407
営 業 外 収 益		2,312,849
受 取 利 息 及 び 配 当 金	28,300	
雑 収 入	2,284,549	
営 業 外 費 用		664,640
支 払 利 息	197,049	
雑 支 出	467,591	
経 常 利 益		2,911,616
特 別 利 益		18,180
固 定 資 産 売 却 益	18,180	
特 別 損 失		4
固 定 資 産 除 却 損	4	
税 引 前 当 期 純 利 益		2,929,792
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		81,000
当 期 純 利 益		2,848,792

## IV 令和2年度事業計画

平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、平成23年度に市からの出資金を減資したことにより、それまでの16億円を超える累積損失を一掃し、平成24年度には減価償却費、維持管理費等の軽減を図るため、ケーブルカー等の事業資産を市へ譲渡した。

この資産譲渡にともなう減損処理により生じた欠損金についても、経営改善計画に基づく配置人員の見直しによる大幅な人件費の削減や、営業強化による収益の向上などにより、平成27年度末には解消した。

平成24年度以降は、毎年安定して利益を計上しており、令和2年度も引き続き経営の効率化、利用者サービスの向上、皿倉山の観光振興に努める。また、ケーブルカー、スロープカーの運行にあたっては、安全を第一とする良質な運行サービスを提供するため、引き続き以下の項目について重点的に取り組む。

### 1 「経営改善計画」の継続と人材の育成

経営改善計画に基づく、効率的で適正な運行、業務執行体制のための改善を継続していくとともに、事業継続のための人材の育成に努める。

### 2 安全運行遵守

「令和2年度無事故達成」をスローガンに、①安全意識の醸成、日常的な現場巡視による実情の把握と業務マニュアルの実践・遵守の徹底、②車両、運転施設の徹底的な点検、整備の実践、③同種事業や関連会社との情報交換会などの研修を通じたスキルアップを図る。

### 3 増客、増収対策

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響による利用者の大幅な減少と感染拡大防止経費の発生により、経営環境は不透明な状況にあるが、政府及び関係機関の指導・指針に沿って、感染拡大防止に最善の努力をしていきながら、その都度必要な対策を講じ、可能な限り増客、増収に努める。

#### (1) 「恋人の聖地」のPR、夜景の魅力発信

全国ブランドの「恋人の聖地プロジェクト」に参画し、併せてケーブルカー神社（恋愛成就、安全祈願等）を設置している。恋人の聖地とのタイアップによる話題づくりを行いながら、全国に向けて皿倉山と「新日本三大夜景」「日本夜景遺産」としての魅力発信していく。

#### (2) イベント等企画事業

皿倉山の知名度の向上と環境学習・レジャースポットとしての定着を目指し、皿倉山の特性・優位性（夏は涼しい、景色、夜景、四季の変化）を活かした、イベントを体系的に連続して実施することにより、認知度の向上と費用対効果の改善を図る。

毎年マスコミにも大きく取り上げられ好評の「星空ビアガーデン」や「森のがっこう」「観

望会（天体観測）」「サタデーナイトライブ」「ミュージックフェスタ（バンド大集合）」「仲秋のお月見会」「皿倉山で愛をさけぼう大声コンテスト」「クリスマスライブ」「バレンタイン大作戦」等のイベントや、山形大学と連携した市民向けの「星空案内人資格認定講座」を実施する予定である。

また、イベントの実施にあたっては、市・区役所及び帆柱自然公園愛護会、地域団体等との連携をより深めていく。

### (3) 集客・広報の取り組み

市内のホテルと連携した宿泊パック商品等により、市内宿泊者のケーブルカー利用促進に努める。

また、CATVやラジオ番組へのCM提供、JR小倉駅や福岡市天神の街頭ビジョンへの広告掲示を行うとともに、ダイレクトメール、新聞、テレビ、情報誌、市広報紙のほか、ラジオ、インターネット等各種メディアに対して、タイムリーで積極的なイベント・営業情報等のPRを行う。

### (4) 夜間運行の実施

令和元年度は土日祝とイベント期間中に行っていた夜間運航を、平日の金曜日にも拡大して行った。平成30年10月、北九州市が「日本新三大夜景都市」に認定されたことを機に、皿倉山の夜景観光客も増加しているため、令和2年度からは、金曜日以外の平日にも夜間運行を行い、更なる増客を図り、北九州市の夜景観光に寄与していく。

## 4 乗客サービス向上

「お客様ご意見箱」やイベント時のアンケートなどにより顧客ニーズを的確に把握し、サービスに反映するとともに、「笑顔で心からのおもてなし実践」を、日常業務や接遇研修の中で従業員全員に指導徹底していく。

## V 令和2年度予算

予定損益計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日 (単位：千円)

科 目	金 額
鋼 索 鉄 道 事 業	
営 業 収 益	102,117
営 業 費 用	109,804
営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	▲7,687
そ の 他 事 業	
営 業 収 益	45,259
営 業 費 用	22,858
営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	22,401
全 事 業 営 業 利 益 ( ▲ 損 失 )	14,714
営 業 外 収 益	1,807
営 業 外 費 用	224
経 常 利 益 ( ▲ 損 失 )	16,297
特 別 利 益	0
特 別 損 失	0
税 引 前 当 期 純 利 益 ( ▲ 損 失 )	16,297
法人税、住民税及び事業税	81
税 引 後 当 期 純 利 益 ( ▲ 損 失 )	16,216

## VI 役員名簿等

### 1 役員名簿

令和2年7月3日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	吉田茂人	
専務取締役	欠員	
取締役	大庭千賀子	北九州市企画調整局長
〃	小牧兼太郎	北九州市財政局長
〃	鮎川典明	北九州市産業経済局長
〃	東義浩	北九州市建設局長
〃	上田浩	北九州市八幡東区長
監査役	小島庸匡	公認会計士
〃	久保田裕明	北九州市産業経済局地域・観光産業振興部長



2 市との特命随意契約の状況（令和元年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の 場合その理由
皿倉地区観光 来訪者対応業務	20,374	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	館内清掃	1,037	社会福祉法人北九州障害者福祉事業協会	随意契約 (特命)	障害者優先調達推進法に基づく優先発注のため。
			浄化槽保守	456	株式会社 枕組	随意契約 (特命)	山上という寒冷差が大きい環境で、夜間を含め臨機応変に緊急対応できる能力を有するため。
			昇降機設備保守	1,321	ダイコー 株式会社	随意契約 (特命)	対象設備の技術情報を保有する同社しか、速やかな故障等への対応ができないため。
			自家用電気工作物保守	471	中原電気 管理事務所	随意契約 (特命)	他の電気動力設備の保守管理と一体的に実施することで、円滑な業務の実施が可能であるため。
			消防設備保守	65	株式会社 東和防災システム	その他	少額随意契約(1件5万円以下) 2件
			空調設備保守	153	スガハラ テクノ株式会社	その他	法令等による専門知識や技術を要し、作業等を実施するための専門的な設備・施設が必要であるため。
皿倉山ケーブルカーオーバーホール等業務	20,856	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	オーバーホール等業務のうち、作業に専門的な設備・施設が必要な部分	20,856	日本ケーブル株式会社	随意契約 (特命)	同社が製作・納品したケーブルカー施設で、業務実施にあたっては特殊な専門知識や技術を必要とし、また、作業を実施するための専門的な設備・施設も備えている唯一の業者であるため。
帆柱自然公園及び皿倉登山道維持管理業務	4,075	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	帆柱自然公園内の巡視・通報、公園利用者への指導等	500	特定非営利活動法人帆柱自然公園愛護会	随意契約 (特命)	帆柱自然公園内において、日常的に自然公園や動植物の保全・保護活動を行っていることから、その時々々の現地の状況を熟知し、当社と連携した的確な巡視、通報、指導が可能であるため。

			GW 期間の表登山道入口通行止めにかかる警備及び誘導業務	788	安全警備株式会社	随意契約 (見積合わせ)	
			帆柱自然公園初日登山等警備業務	365	安全警備株式会社	随意契約 (見積合わせ)	
			皿倉平交通規制ゲート施設管理及び交通整理業務	594	安全警備株式会社	随意契約 (見積合わせ)	
合計	45,305		合計	26,606			